

定期巡回池上長寿園 24 介護・医療連携推進会議 (平成 29 年度第 2 回)	
開催日時	平成 29 年 6 月 13 日 (火) 15:30~16:30
会場	池上長寿園 池上会議室
出席者	12 名 自治会連合会長、民生・児童委員協議会会長、地域包括 1 名、区職員 1 名、連携先訪問看護ステーション 4 名、事業部責任者など 4 名
<p>議事</p> <p>1 出席者自己紹介</p> <p>2 活動状況報告 (平成 29 年度 6 月 13 日現在 実績報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 男性 1 名、女性 3 名 合計 4 名 (内訳 要介護 1 : 1 名、要介護 3 : 1 名、要介護 4 : 2 名) ➤ 4 月利用開始 1 名、5 月利用者開始 1 名、5 月利用終了 1 名、6 月利用開始 1 名、6 月利用終了 1 名 ➤ 利用者居住エリア 下丸子、上池台、池上、北千束 ➤ 担当ケアマネージャー他社 4 名、自社 0 名 ➤ 5 月新規利用者、ご逝去のため、5 月中に終了。 ➤ 6 月 1 名 要介護 5 利用者定期巡回利用から他介護保険サービス (訪問介護) へ変更。 ➤ 退院されてからの利用、認知症状の進行に伴い内服管理できず介助のため 5-10 分程度、1 日 3 回訪問や食事を食べた、食べていない、洋服あるなしなど認知低下に伴うモーニングケアや就寝介助のための訪問など 10-20 分の介護がある。 ➤ 1 日 2~3 回の訪問回数が多い。新規の間合せも月に 2~3 件とあるが、実際のサービスにつながったケースは 1 件のみ。施設サービス利用となることが多い傾向。 ➤ 池上高齢者在宅サービスセンターの職員が居宅介護支援事業所へ回る際には、協力、連携して当事業の PR をしているところです。 ➤ 地域の居宅介護支援事業所向けの勉強会などにも参加予定。 <p>3. 今後の予定</p> <p>(1) 参加者からのご質問、ご意見</p> <p>地域包括支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ Q : 利用者の鍵預かりについて A : 複数ヘルパーや複数事業所においてお伺いすることから、契約時にお預かりする旨の文書、説明書、同意書を取り交わし、適切な取扱いを遵守しています。 	

- Q：訪問時に体調の変化などがあつた際には、どのような対応を
- A：必要な処置、対応についてサービス担当者会議において確認し、家族や医師、介護支援専門員への連絡など含めて連携を図つた対応をしています。

- Q：1回の訪問時間はどのくらいが多いのですか？
- A：20分未満、30分未満、1時間未満などでサービス内容としては、身体介護が多いです。

(連携) A 訪問看護事業所

- Q：利用者の構成比ではすべて他社の介護支援専門員だが、自社（自法人）は。
- A：自法人には南蒲田に居宅介護支援事業所がございます。問合せをいただくこともございますが、当事業所は調布地区でのサービス展開が多く、蒲田在住の方のサービス利用には至らないことは、今後の課題です。

- Q：ご利用者ご家族の介護力が養われる過程の中で、連携して訪問をしているが、定期巡回のサービスが果たして適切なサービスなのかをアセスメントしながら、常に訪問しています。ご家族のご要望に応じて、サービスを継続しています。
- A：サービス開始時には、お一人暮らしの高齢者が多いと想定していましたが、ご家族が同居をされているケースが、非常に多くありました。手厚いケアをして頂いたという評価も多いが、過剰なサービス提供を中止し、自立支援の視点を持ち、適切なサービスを必要な分だけ提供していくことを目指します。

- Q：定期巡回訪問介護・看護の制度自体に、課題が多いと感じています。医療依存度が高い方でも、介護を要する方がニーズとして考えられますが、非常に狭い限定されたご利用者のニーズしかありません。たん吸引のケアが行えるヘルパーなどが多く配置され、介護を要する障がいのある方への吸引などが実践できれば良いが、(連携型)訪問看護事業所側の負担の比重は多く、採算性のないサービスと捉えられます。介護保険サービスとして、訪問看護事業ではなく、定期巡回で入ることは、適切ではないと感じることも多い。

- A：連携先である訪問看護事業も限られており、利用者のケースによっては、非常にご負担をお掛けしていることも承知しています。サービス提供においては、訪問看護師の細やかなアセスメント、専門的かつ適正なアドバイスも、サービス提供をする上では活用させていただいているところです。

(連携) B 訪問看護事業所様

- ターミナルケアの方で、月 1 回のモニタリングで関わらせていただいておりますが、定期巡回訪問介護サービスを使って介護負担が軽減したと、喜んでいただいたご家族の評価がありました。
- 訪問件数、回数によっては事業所側の視点では割に合わない事業で、サービスの棲み分けも大切であると考えますが、自事業所としては地域の連携と理解した上で協力させて頂いています。

大田区介護保険課様

- 明日(6月14日)に池上会館にて300人程度の介護支援専門員の皆様に勉強会を実施する機会がございます。地域密着型サービスについて、居宅介護支援事業所様、介護支援専門員様にはまだまだサービス事業の内容を把握していただいていない現状もございます。この機会に合わせて定期巡回についても広くご案内できればと考えております。

自治会連合会長様

- サービス時の移動手段については、どのような手段が主となっているか以前も伺い、実際に拝見もしましたが、自動車は少なく、電動自転車でもない、普通の自転車の方が多いと聞いて大変、驚いています。近隣の土地柄としては、坂も非常に多いので、定期巡回訪問介護・看護サービスの認知度が高まり、事業が普及していくことで、近い将来、介護ロボットなどの活用も考えられますし、効率的にサービスを提供できる「ツール」なども導入できる検討と合わせて、ニーズも高くなっていくのではないかと。そのような中でも、行政が、予算の中に組み込んでいただければ今後の事業の普及にも繋がるのではと考えます。

5 その他

- 介護・医療連携推進会議は運営基準上、3カ月に1回の開催となります。次回開催時においてもご参加、ご協力いただき忌憚なきご意見を頂きたいと思っております。

以上

